

# 幼稚園

「きらきらふるまいみんなにここに」を繰り返し使っていくことで、子どもたちから「こんにちは」「ありがとう」という言葉が自然に出てくるようになってきている。

年長さんが張り切って挨拶運動当番をするのを見て、みんなが積極的になってきた。

## あいさつ

自分から進んで挨拶をする子が少ないが、子どもが自分から挨拶や声をかけて来た時に、「元気な声だね、今日もいっぱい遊ぼう。」等の声を返すことで、少しずつ自分から挨拶をする子が増えてきている。

挨拶に関する取組は非常に多く、明るく元気のよい挨拶が増えてきているという回答が多くありました。また、それにより地域からも褒めていただいたり、つながりが深まったりしているという成果も報告されています。

その他に意識した点として、「カードなどの利用」「職員のまねをして」「校種間の連携」「地域との交流」「名前を言い、視線を合わせる」「繰り返し」などの言葉もありました。

### ～小学校からの声～

地域全体の取組により、入学直後からの新入生の挨拶がよく、安心した様子で元気に学校生活を送る姿が、早い段階からみられるようになった。

校種間、地域が連携した一斉の動きをすることで、生活習慣の改善に向けた取組の成果が出てきた。

よい行動を認めることで、全体が意欲的になった。

スリッパをそろえる理由(次の人のため・気持ちよさ等)がわかると、他のスリッパもそろえてくれるようになった。

## 生活習慣など

野菜作りなど食に関する取組を進めることで、食事、食材への関心が深まり、特に地元食材の山菜や魚を喜んで上手に食べるようになった。

茶道教室で礼儀作法を教えていただき、相手に対する感謝の気持ちの伝え方に触れ、まねて実行したときには、なんとなく心地よさを感じているように見える。



飯南町 保育所でのボランティア保育サポート

成果が上がっている反面、意識を継続していくことが難しく家庭の協力が必要、という意見もありました。意識した点としては、「意識のさせ方(具体物、カード、シールなど)」「体験活動(役割、自分のことは自分で)」「連携した取組」などがありました。

また、生活習慣の改善により意欲的になってきたという報告もありました。

年齢に応じた当番活動をするなど、人のために何かをすると喜んでもらえることがわかり、うれしい気持ち、役立っているという気持ちを感じ、奉仕する心も育っている。協力することの大切さも学んでいる。

話し合いの場をつくったり、気持ちを聞いたり、よいところを見つけたりすることで、相手を認めることができるようになってきた。

## 豊かな心



出雲市 中学生が園児といっしょに窓ふき

野菜作りや、行事への参加といった地域の方との交流によって、感謝や思いやりの気持ちが育っている。

0～5歳みんなと一緒に歌うということをしたことで、話を聞く、集中することができてきた。

小さな子どもとの交流を通して相手の思いを尊重したり、我慢したり、他者の思いを察して行動することが増えた。

異年齢との交流が、豊かな心を育んでいるという回答がたくさんありました。また、栽培活動や当番活動などから、思いやりの心や、自己有用感などが育まれているという声もありました。  
やりっぱなしの体験ではなく、自分の気持ちを伝える、人と話す、振り返りの時間を持つなど、年齢に応じた様々な取組や支援が大切なことのようにです。

## 保護者や地域

挨拶運動、すこやか週間、一日保育士体験などを通して保護者の態度が変わった。生活リズムの乱れも極めて少なくなった。子どもたちの取組に感化される面もある。

食に関する行事は毎年取り入れ、食に関することを話題にし、井戸端会議的に時間を取ること、食への意識が高まった。



松江市

公民館文化祭での中学生ボランティア

子どもが挨拶をするようになり、親にも意識が芽生えてきて、自然に会話も増えている。

親学プログラムの体験で、子どもの気持ちを考え、寄り添った対応が大切だと理解する保護者が増えた。保護者同士のつながりもできた。

保護者にコップ入れなどを手作りにしてもらうようお願いした。大変がられたが、結果的には、子どもの感謝で、意識が変わった。



幼児・小学生・地域の方がいっしょに挨拶運動

奥出雲町

具体的で、できそうな取組を勧めることで、少しずつ生活習慣の改善につながっている。

地域へ出かけた際、子どもも職員も積極的に挨拶するようになったことで、地域の方が親しく思ってくださるようになった。

生活習慣改善の啓発を続けること、子どもの取組の様子や成果をこまめに知らせることで、家庭の意識も変わりやすいようです。

ふるまいの大切さは伝えることができても、実行に移すことができにくいところへは、取り組みやすいことから具体的な方法を伝えるなどの支援をしていくことが必要なことのようにです。